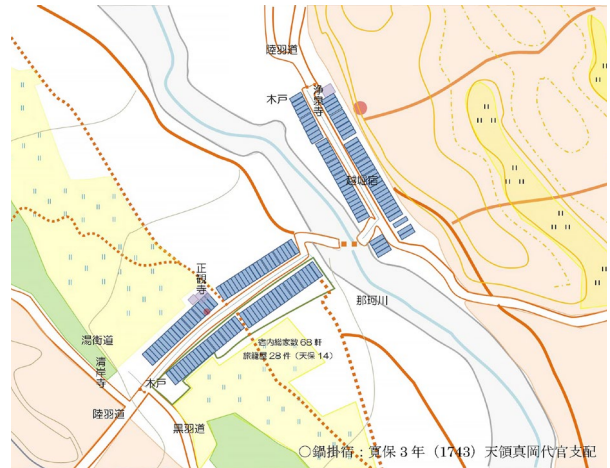


1. 奥州街道と鍋掛・越堀

江戸時代の初期に、徳川幕府によって江戸と奥州を結ぶ奥州街道が開かれました。この街道は、東海道・中山道・甲州街道・日光街道とともに幕府五街道の一つとして数えられていました。街道の呼称については、地域により様々で、「享保通鑑」によれば、享保元年（1716）4月の記録に「日光道中、甲斐道中」とはあるものの、民間では海道や街道と混同されるケースが多かったようです。宝暦8年（1758）には、五街道の名称と区間について議論がされ、区間が明確化されるとともに名称も「道中」とされましたが、現在では奥州街道と呼ばれるのが一般的です。

■ 鍋掛宿・越堀宿の位置関係図



※『黒磯市史』を基に作成

奥州街道は、江戸の千住から陸奥の白河まで27宿（宇都宮までの17宿は日光街道と重複）を数え、鍋掛宿・越堀宿は23・24宿目となります。鍋掛から大田原宿まで2里30丁、越堀から芦野は3里、荷物の継立（輸送）は片継で、鍋掛は芦野までの下りのみ、越堀は大田原までの上りのみでした。江戸時代の参勤交代では、東北方面の30を超える大名がここを通過しました。現在は県道72号大田原芦野線となっています。

鍋掛宿

鍋掛宿は、宇都宮から6番目の奥州街道の宿場です。北は那珂川を隔て越堀宿になります。開宿は奥州街道が整備された慶長9年（1604）頃かと考えられています。慶長5年（1600）徳川家康の上杉攻めの際、下館城主の水谷勝俊が鍋掛に陣し、翌6年（1601）の「前田慶次道中日記」に「大たはら米はあれとも其ままに煮てやかまましなへかけのまち」とうたわれており、既に奥州へ通じる道に町場を形成していたことが伺えます。参勤交代によって当宿を通る大名の多くは昼食か小休憩に利用しました。



鍋掛宿跡付近一里塚

越堀宿

越堀宿は、慶安4年（1651）の「下野一国」に「越堀新田村」と見え、宇都宮宿から7番目の奥州街道宿場として発展してきました。近世は黒羽藩領に属し、寛永年間（1624～43）から宿場が整い始め、正保3年（1646）正式に宿場として認められています。明治17年（1884）、陸羽街道（旧奥州街道）が路線変更により黒磯村方面に移り、同20年日本鉄道（現東北本線）が福島県郡山まで開通すると、旧奥州街道を通る旅客や物資は激減し、宿の機能は次第に薄れてきて現在に至っています。



鍋掛宿跡に残る奥州街道の旧道



那珂川（昭明橋より上流側）

分野	名称
指定文化財	鍋掛の一里塚・芭蕉の句碑・黒羽領境界石・寺子の地藏尊・正観寺のシダレザクラ・鍋掛のイトヨ・寺子のエドヒガン・越堀の大杉
未指定文化財	正観寺・浄泉寺・会三寺・樋沢不動尊・温泉神社・八坂神社・加茂神社・鍋掛神社・竈神・六十六部供養塔・馬頭観世音（多数）・鍋掛もちつき唄



黒羽領境界石

高久靄厓

南画家の高久靄厓^{あいがい}は、江戸時代の画家です。那須塩原市越堀字杉渡土の高久家出身で、幼少の頃から絵を好み、黒羽の画家小泉斐^{あやる}に絵の手ほどきを受けました。その後、大田原・鹿沼・仙台等を遊歴して絵を学び、文政6年（1823）の時江戸にのぼり、谷文晁^{ぶんちよう}の門人となりました。たちまち頭角を現し、渡辺崋山・椿椿山・立原杏所らと並ぶ画家として名声を博しました。代表作に《歳寒三友図》等があります。

天保14年（1843）4月8日、病のため江戸の画室で48歳で急逝しました。墓碑は、杉渡土西方の高久家の墓地にあります。靄厓の妻が江戸を引き上げて故郷の仙台に帰る途中、高久家に滞在し靄厓の遺髪を埋め、位牌をかたどって墓石を建てたと伝えられています。



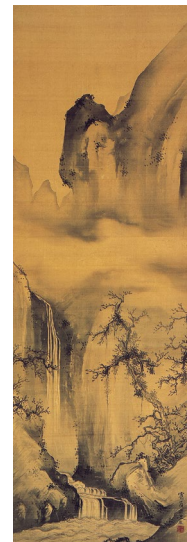
高久靄厓の墓



西園雅集図屏風



絹本墨画松溪曳杖図



絹本墨画山水図

分野	名称
指定文化財	紙本墨画山水図・絹本淡彩夏暁山水図・絹本墨画松溪曳杖図・西園雅集図屏風・高久靄厓の墓

2. 物資の輸送に利用された原街道（原方道）

原街道は、正保2～3年（1645～46）にかけて会津藩等によって整備された、現在の福島県白河より氏家町の阿久津河岸に至る街道です。概して現在の国道4号と一致、あるいは平行して通っています。当時は黒磯で奥州道中練貫に向かう道が分岐し、蛇尾川付近で槻沢を通過するルートと石林を通過するルートの2つに分かれていました。槻沢を通るルートは薄葉で日光北街道に合流し、石林を通るルートは箒川手前の平沢を通り、阿久津河岸へ向かいました。別称・異称には、原方街道・原方道・米積街道などがあります。当初から、会津藩の廻米など物資の輸送路として利用されました。残念ながら、往時の状況をとどめている箇所は少ないのが現状です。



石林の道標



原街道絵図

分野	名称
指定文化財	石林の道標・原街道絵図・本郷町の馬頭観世音
未指定文化財	槻沢の間屋跡

3. 会津中街道～険しい山越えの道～

天和3年（1683）の日光地震により男鹿川が堰き止められ、湖が出現したことにより、男鹿川沿いを通る会津西街道が通行不能になりました。その代替え道として整備され、元禄8年（1695）に開通したのが会津中街道です。会津若松城下を起点とし奥州道中氏家宿に至る31里10町52間のルートで、会津若松城下より白河に至る会津東街道、同じく今市に至る会津西街道に対して中街道と呼ばれています。

会津下郷町の旧弥五島村・塩生から東に折れ、松川・野際新田を経て那須連山の大峠を越え、三斗小屋・板室・百村・高林・横林を通り、大田原市域に入り矢板・氏家の阿久津河岸へ至ります。享保8年（1723）には会津西街道が復旧し機能しますが、西街道より20kmほど短いルートでもあるため、その後も継続して使用されました。また、慶応4年（1868）の戊辰戦争時には、会津藩などの旧幕府軍と新政府軍との激戦地となったことでも知られています。

会津中街道のルート

会津若松⇒面川⇒番塩⇒小塩⇒桑原⇒小出⇒弥五島⇒松川⇒野際⇒大峠（県境）
 ⇒三斗小屋⇒板室⇒百村⇒高林⇒横林⇒石上⇒山田⇒矢板（日光北街道と合流）
 ⇒川崎 ⇒ 乙畑 ⇒ 氏家（31里10町52間≒128km）⇒阿久津（鬼怒川舟運）



笹野曾里西の一里塚



横林の一里塚



下大貫の一里塚

分野	名称
指定文化財	板室本村の湯本道標・一里塚（板室本村東西一对、横林東西一对、下大貫一对、笹野曾里東西一对）・板室古戦場・三斗小屋宿跡
未指定文化財	高林の一里塚・早坂の一里塚

4. 塩原道と関谷宿

塩原道（尾頭道）は、会津西街道の脇道で、尾頭峠を越え塩原に至る最短の街道です。天和3年（1683）の日光地震によって五十里湖ができた時、一時的に塩原経由氏家阿久津河岸に至る会津藩の廻米道として利用されました。その街道筋に宿場として形成されたのが関谷宿です。

関谷の集落は、もともとは現在の場所より西方の「古屋敷」にありましたが、交通が盛んになったことを契機として現在地に移りました。享保8年（1723）には会津西街道が復旧しますが、会津西街道並びに会津中街道経由の物資輸送路として利用され続けました。関谷宿は、将軍の代替わりごとに派遣される幕府巡見使の通路になっており、少なくとも3回は宿場に泊まった記録が残ります。

慶応4年（1868）の戊辰戦争時には、宿内の21戸が焼き払われました。

5. 新陸羽街道と塩原新道～道路網の整備～

明治になり、栃木県令三島通庸はこの塩原道の開削整備に乗り出しました。これは、三島通庸が福島県令時代の明治15年（1882）に、会津若松を中心にして山形県（米沢）、新潟県（新潟）、栃木県（大田原）の三方を結ぶいわゆる「会津三方道路」の一環として計画されたものです。

塩原新道（現国道400号）と呼ばれたこの街道は、大田原を起点に関谷、塩原温泉、善知鳥沢（うとうざわ）を経て山王峠に達する計画で、後に起点を三島に変更して整備されました。塩原新道は明治17年（1884）10月に完成し、これにより温泉地としての塩原の名が広く知られる契機となりました。

新陸羽街道（現国道4号）は、塩原新道の開削と合わせて県令三島通庸が整備した国道です。名目上は陸羽街道（旧奥州街道）の改修となっていたようですが、宇都宮から白河に至る区間はほぼ路線が変更されました。中でも、下石上（大田原市）～黒磯間は新道の開削を行っており、新道が三島農場を通過していることが当時の県議会で物議を醸しました。

この新陸羽街道の開通は、塩原新道と同じ明治17年（1884）10月で、二つの街道の開通式典は同日に、三島地内で挙行されました。新陸羽街道が開拓地を縦断したことで、那須野が原の開拓に拍車がかかったといえます。

道路網の整備は以降も続き、東日本の大動脈の一つである東北自動車道が、昭和49年（1974）12月に矢板－白河間が開通し、国道400号と接続する西那須野塩原インターチェンジが開通。平成21年（2009）には黒磯板室インターチェンジが開通し、市内に二つのインターチェンジを擁することになりました。

高橋由一

高橋由一は「日本近代洋画の父」といわれる画家です。明治14年（1881）より三島通庸の要請により、三島が行った数々の土木工事の記録画を描いており、塩原新道を含む「会津三方道路」の記録も依頼されています。由一は、明治17年（1884）8月から11月まで108日にわたって栃木・福島・山形県を写生旅行し、そのスケッチを元に石版画「三県道路完成記念帳」を作成しました。その中から7枚を油絵に仕立て、これに三島農場を描いた1枚を加えて《鑿道八景》としました。

分野	名称
指定文化財	関谷常夜灯・関谷の駐蹕碑・鑿道八景
未指定文化財	三島通庸紀恩碑・御公儀様御巡見日記帳

6. 近代那須地区の歴史を大きく変えた東北本線

明治19年（1886）に宇都宮－黒磯間が竣工し、明治24年（1891）に上野駅から青森駅まで全線開通した東北本線は、関東と東北を結ぶ一大動脈として東北新幹線と共に機能し続けています。当初、宇都宮－白河間は旧奥州街道に沿って計画され、測量まで終わっていましたが、宇都宮以北は、矢板、西那須野、黒磯、黒田原を通る路線に変更され、その結果新陸羽街道同様に鉄道も那須野が原の開拓地を通ることとなり、開拓地への人口流入と駅前の都市化が進みました。また、鉄道の開通は、旧道に面した宿場町の衰退を招くこととなります。

路線の変更の理由は定かではありませんが、那須野が原に開拓農場を構えていた元勲大山巖、西郷従道をはじめとする政府高官たちの存在が大きかったことが指摘されています。



※西那須野町の交通通信史

市内の3つの鉄道駅

西那須野駅は、当初那須駅として明治19年(1886)に開設され明治24年(1891)現駅名となりました。明治25年(1892)の栃木県の統計では、大田原や塩原を背後に抱えたことにより、乗下車とも30,000人を超え宇都宮・小山に次ぐ乗降客で賑わいました。

黒磯駅は路線変更と地区の活動により誘致され、東京―仙台の中間の位置であり、機関庫を有する2等駅としての規模を持っていました。駅前には、鉄道関係者の職員住宅をはじめ、商人の進出、鍋掛宿からの旅館の移転などにより市街化が進みました。乗降客も明治25年(1892)には年間20,000人を越え、貨物出荷取扱量も宇都宮に匹敵する勢いで伸び、明治25年(1892)には年間15,000tを超えるものでした。さらに、大正年間の黒磯駅からの貨物発送では、木炭が大正6・7年(1917・1918)にピークを迎え年間16,000tに達しています。また、木材も伸び続け大正3年(1914)に年間4,000t前半から5年後には年間13,000tを超え3倍強にもなりました。その他、硫黄や葉タバコ、穀類が輸送されました。

新幹線開業と鉄道輸送交通体系の変化により、黒磯駅前がかつての賑わいは減りましたが、現在は駅前の新たな魅力を創出するための再開発が行われています。

東那須野駅は、明治31年(1898)に開業しました。昭和57年(1982)に東北新幹線の停車駅となり現在の「那須塩原駅」になりました。新幹線開通以降は、皇族が、那須御用邸に向かう際の乗降駅としてそれまでの黒磯駅に代わり利用されており、那須地域の観光の玄関口となっています。

7. 那須人車軌道と塩原軌道（塩原電車）

明治19年(1886)の東北本線開業で、西那須野駅(明治24年(1891)那須駅から改名)が新たな交通の拠点となったことで、周辺にも地域の流通や経済の活性化を試みる私鉄が生まれました。

那須人車軌道の開業は、明治41年(1908)のことです。文字通り人力で客車や貨車を輸送する鉄道で、大田原街道の路面を利用し、西那須野～大田原間約5kmを繋ぎました。

開業当初は盛況でしたが、大正7年(1918)に開業した東野鉄道や、乗合自動車の開業で業績が悪化し、昭和5年(1930)営業休止、同9年に廃止となりました。

塩原軌道(後の塩原電車)は、西那須野駅～塩原口駅間14.6kmを結んだ軽便鉄道の鉄道会社です。明治45年に西那須野駅～関谷間が開通し、大正4年(1915)には約2.5km延長されました。大正10年(1921)に電化され、翌年には塩原口までの約1.7kmが延長されましたが、創業以来赤字が続き、併せて、乗合自動車の普及や金融恐慌等により利用者が減少し、昭和8年(1933)に休止の後、昭和10年(1935)に廃止されました。

■ 塩原電車の路線



※『塩原温泉ストーリー』(那須野が原博物館)を基に
国土地理院標準地図を加工して作成

8. 西那須野と大田原・八溝山地をつないだ東野鉄道

東野鉄道は、西那須野から黒羽を経て、小川町（現・那珂川町）の那須小川までを結んでいた鉄道で、大正7年（1918）に西那須野～黒羽間が開通し、大正13年（1924）に黒羽～小川間が開通しました。当初から総延長を茨城県の大子までとする計画でしたが、実現には至りませんでした。乗客数は昭和22年（1947）をピークに激減し、昭和43年（1968）に全線が廃止されました。営業距離は24.4 kmあり、駅数は13駅ありました。廃線跡のうち西那須野駅から4.2 kmの区間が自転車・歩行者専用道路となり、現在は「ぽっぽ通り」の名で親しまれています。

■ 那須人車軌道と東野鉄道の路線



※『栃木県史 史料編 近現代 7』などを基に
国土地理院標準地図を加工して作成

分野	名称
指定文化財	塩原軌道「塩原口」駅舎跡
その他文化資源	ぽっぽ通り